

インターバンクの声（2015年8月31日）

もともと期待するのが無理だったのかも知れないが、ジャクソンホールを経済シンポジウムに出席したフィッシャー米連邦準備理事会（FRB）副議長からは、9月利上げへの明確な回答はなかった。「9月の利上げ判断は時期尚早」としながらも「次の2週間に出るデータを考慮する必要がある」と付け加え、ややハト派寄りとされている副議長のこの発言が9月利上げの可能性を残したことがニューヨーク市場後半のドルを堅調地合いにしたようだ。世界的な株安連鎖を引き起こした中国経済の減速懸念はひとまず収まっている格好だが、この8月下旬の混乱がなくても副議長が9月の利上げを明言することはなかったのかも知れない。イエレン議長のシンポジウム欠席は、すでに5月の時点で決まっており、9月から年末までのどこかの時点で利上げに動く算段はあったにしても、今回の副議長はイエレン議長の代理としての役割を演ずるのが重要だったのだろう。9月4日の雇用統計の数字が極端に強くなると思えず、いよいよ穴の10月、本命の12月利上げ観測に傾きそうな状況だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。